

図書館通信

日大鶴ヶ丘高校図書館 第6号 令和2年8月発行

図書館部主任より

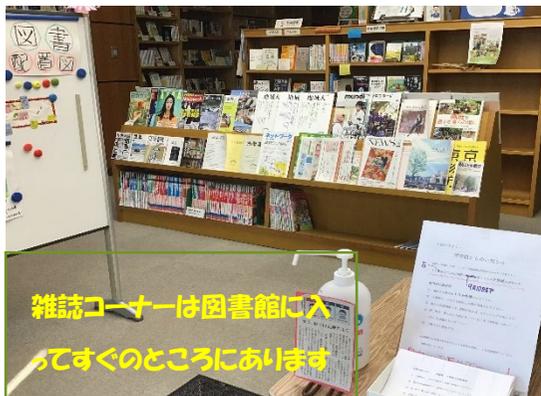


7月第3週より1, 2学年で、対面での授業が再開されました。今までの分散型登校に変わってクラス全員が1つの教室に入っただけの授業です。1年生にとっては入学後初めての経験です。例年でしたら当然のことですが、今年は感慨深いものがあります。波乱に満ちた一学期が終わろうとしています。新型コロナの感染拡大に加え、日本列島では大雨による災害も発生しました。皆さんにとっての大きなニュースはなんでしたか？さあ、**夏休みです**。一学期を振り返って見ましょう。

世の中の動きも大きく変わったように思います。これからも変わっていくでしょう。大きな変化の前に、個人としての人間は無力です。しかしその個人の行動が未来を決めていくという現実を、これほど実感したことが今まであったでしょうか。今まで以上に、**どうしたら良いのか**が見えづらい時代になりました。でも逆に**どうしたらいけないのか**は見えやすくなったのではないのでしょうか。皆さんはどう思います？

正解を求めるばかりでなく、**正しい問いを立てる**、そんな発想が大事かもしれません。問いと答えは決して相反するものではないと思います。正しい問いの中には正しい答えが含まれているはずですよ。あの「昆虫記」の作者「ファーブル」は言っています、**「自然は正しく問いかければ、正しく答えてくれる」**と。

図書館紹介 . . . その4



今回は「**雑誌コーナー**」を紹介します。館内の雑誌は**部活動関係、進路関係、教養・趣味関係**に分けられます。部活動関係としてはどの部に対しても1冊は専門誌を購入しています。進路関係では定番の『**螢雪時代**』、教養・趣味関係では『**ダ・ヴィンチ**』『**Tarzan**』『**AERA**』『**Number**』『**日経エンタテインメント!**』『**SCREEN**』『**non-no**』など。天文部はありませんが『**月刊星ナビ**』、鉄道部はありま

せんが『**鉄道ジャーナル**』も（何故か）あります。少し硬派なものと『**文藝春秋**』『**中央公論**』『**世界**』『**ニューズウィーク**』などが揃っています。

そんな中で、今回特に紹介したいのが、『**ネットワーク**』『**クロスロード**』『**mundi**』（あえて分類すれば進路関係でしょうか）。『**ネットワーク**』は「東京ボランティア・市民活動センター」が発行しているもので、地域のイベントの具体的な様子が特集されています。『**クロスロード**』と『**mundi**』はともに「**JICA**」（独立行政法人国際協力機構）が発行しているもので、世界を舞台に働いている人達の様子が紹介されています（ちなみに、本校の職員の中には「**JICA**」で働いた経験のある方がいます。その方から頂いた資料も館内で読むことができます）。将来「地域の役に立つ仕事がしたい」とか「世界を視野に入れた仕事に就きたい」と考えている人には是非見てもらいたい情報誌です。インターネットにも様々な情報は載っていると思いますが、図書館としては、複数の人々による**編集を経た記事**にも触れてほしいと思っています。何事もまずは知ることからではありますが、**情報源の確かさ**は常に意識してほしいものです。**最新号**は入り口すぐの棚に、**バックナンバー**は2階にあります。

読書を通して考えよう

『わたしのせいじゃない -せきにんについて-』あなたへ6』

（レイフ・クリスチャンソン～文・にもんじまさあき～訳・デイック・ステンベリ～絵）



今日はこの**絵本**を紹介します。この本は**スウェーデン**で生まれ、**「あなたへ」**というシリーズで15巻まである、とても人気のある絵本です。なーんだ、絵本か。と思ったあなたこそ、この絵本をちょっと読んでみてください。たった15ページほどの内容ですが、読んでみると**「日常のふとした出来事」**から生き方そのものを考えるきっかけを与えてくれます。「学校の休み時間にあったことだけど、わたしのせいじゃないわ」この一文から始まります。この内容から読み続けると、最後はにっこりと笑う少年兵の写真で終わります。この本はスウェーデンで子供から大人まで人気があるのですが、スウェーデンというと環境問題に対して関心の高い国でもあります。**グレタ・トゥーンベリ**さんという少女を知っていますか？彼女は地球温暖化に対して、一人で怒りの抗議をはじめました。そこから大きな

流れが生まれ、彼女は国連の環境問題の会議に招かれ講演を行います。彼女は地球の為に、二酸化炭素を多く出す飛行機でアメリカに行くことをやめて、ヨットで大西洋を横断しNYの国連本部まで行くという、とても行動力のある少女です。彼女の怒りのメッセージには異論も多くありましたが、逆にその批判も含めて、個人の意見を自由に述べることを感謝したいですね。

この絵本を読むと、グレタさんのようなスケールの大きい事だけではなく。身の回りの本当に誰にでも起こる出来事から、生き方を見直し、考えるきっかけをくれる本だと思います。

「あなたへ」のシリーズは1から15までありますから、もしよかったら他の本を読んでもいいのでは？もしかしたら、あなたの生き方を大きく変えるものに出会えるかもしれませんね。

編集後記

新型コロナコロナウイルスの影響で、今年は変則的な夏休みになります。

夏といえば、例年各出版社が夏休みの読書キャンペーンを展開します。角川文庫の「発見!」、集英社文庫の「ナツイチ」、そして、新潮文庫の「100冊」。中でも新潮文庫の100冊は、魅力的なキャッチコピーを打ち出しています。「本は、そばにいるよ。」これが今年2020年のもの。去年は「大丈夫。君の悩みはもう本になっている」でした。「寄り添う」がこの頃のキーワードなのでしょうか。私が好きなコピーは「ひとりになったら本を読む」1981年のものです。これを少し変えて、「ひとりになるために本を読む」などどうでしょう。周囲の雑音から少し距離を取り、本を相手に自分に向かい合う、そんな時間の使い方を、短い夏休みに楽しんでみてはいかがでしょうか。「夏の頭は感じやすい」ですから。これは1994年のコピーです。

突然ですが、ここで本校図書館の2つのコンセプトと愛すべきマスコットキャラクターを紹介します。2つのコンセプトについては、以前に本校のホームページの「校長通信第16号」（2020年3月3日）で取り上げてもらいました。今回はその姿を紹介します。

○「読書の木」

大木の下で2人の人物が空を見上げています。大木には様々なジャンルの実が枝を通して繋がりが合い、幹からの栄養を吸収し大きく実っています。幹の下にはこの木の子どもた



読書の木

ちでしょうか、若木が育ち始めています。大木がささやきます。入口は様々、読みやすい本から手にとって！1つの分野から世界を広げていってね！・・・と。樹下の2人が見上げているのは無限の世界です。それは同時に広い世界を前にした2人の心でもあります。「読書の木」は、読書の世界へのいざないです。

○「図書館は1匹の蚊でありたい」



これは*『ぼくが5歳の子ども兵士だったとき—内線のコンゴで』という絵本の、主人公ミシェル少年の父親の言葉からいただきました。「蚊はあんなに小さいのに人を起こす力がある！」1匹の蚊の羽音は世界に発信された小さな問題提起の象徴です。読書により知識を広げたら、世の中を見直してもらいたい。問題に気づいてほしい。そんな思いを込めました。本校ではこの本をモチーフに授業を行った先生もいます。「1匹の蚊」は読書の世界に入った生徒たちへの、ささやかな道しるべです。

* (作ジェシカ・ディー・ハンフリーズ/ミシェル・チクワニネ 絵 クローディア・ダビラ 訳渋谷弘子 汐文社)

この2つのコンセプトは、館内の階段下のガラスケースの上に展示しています。

○マスコットキャラクター「よむぞうくん」



図書館のマスコット。図書館司書を目指す男子。ゾウではありません。モデルは・・・図書館カウンター横にいますので気になる人は見て下さい。性格は真面目。返却期限を守らないと厳しい一面を見せることもあります。

まだ見たことはありませんが。さてこの「よむぞうくん」、正面から見るとどんな感じになるでしょう。誰か描いてくれる人はいませんか。待ってま～す!!